

從語料庫 (corpus) 中調查「顏 kao」「面 men」「Face」

～以類別(genre)及詞組(collocation)為中心～

李毓清

實踐大學語言中心講師

摘要

本研究採用「BCCWJ」與「NLB」兩種語料庫，比較「顏」、「面 (men)」、「フェース (face)」三語在各類別的使用頻率及與三語組成的詞語表現。

研究方法：在「BCCWJ」語料庫中統計「顏」、「面 (men)」、「フェース face」三語的使用頻率並個別分析三語在 13 種類別中的使用情形。在「NLB」語料庫中分為「名詞/名詞の/名詞的な+顏」、「名詞/名詞の/名詞的な+面」、「名詞/名詞の/名詞的な+フェース (face)」群組，就各群組的使用頻率、詞組的名詞、詞組的語意及詞組的共通語做分析調查。

調查結果：「BCCWJ」語料庫 13 種類別中，「顏」、「面 (men)」、「フェース (face)」三語的使用頻率都集中在「圖書館・書籍」、「出版・書籍」兩個類別；另外，13 種類別中三者的使用頻率順序皆為「顏」>「面 (men)」>「フェース (face)」。

在「NLB」(整體)中：「顏」「面 (men)」「face」的使用頻率順序與「BCCWJ」一致；而各群組中三者的使用頻率順序有與整體相同的也有與整體相異。「名詞+顏/面/フェース (face)」及「名詞+の+顏/面/フェース (face)」兩群組的詞組的名詞包含了很廣大的範疇；而「名詞的+な+顏/面/フェース (face)」群組名詞則是偏向抽象的概念表現。「名詞+顏/面/フェース (face)」及「名詞+の+顏/面/フェース (face)」兩群組間詞組的語意用法重疊部分很多。「顏」、「面 (men)」、「フェース face」三者間共通語部分並不多；「顏」、「面 (men)」兩者間則有 74 個共通語。

關鍵詞：語料庫 (corpus)、詞組 (collocation)、顏 (kao)、面 (men)、face

受理日期：2015. 03. 09

通過日期：2015. 05. 22

A Corpus-based Investigation of “顔(kao)”, “面(men)” and “フェース (face)”

~focusing on genre and collocation~

Yu-Ching Li, Lecturer
Shih-Chien University

Abstract

This study, which investigates the words of “顔(kao)”, “面(men)” and “フェース(face)” in two corpus: BCCWJ and NLB, aims to analyze these three word frequencies in different genres and words collocation.

Research Method is to examine the words of “顔(kao)”, “面(men)” and “フェース(face)” in corpus BCCWJ then to find out its words frequencies and to analyze the words in 13 genres. Furthermore, NBL corpus is classified the words into groups. The groups into which NBL classified include: “noun / noun’s / noun’s な(na)+顔(kao)”, “noun / noun’s / noun’s な(na)+面(men)” and “noun/ noun’s/noun’s な(na)+フェース(face)”. Then the study analyzes the words frequencies, noun collocation and the common forms of collocation in these groups.

The results demonstrate that the word frequencies of “顔(kao)”, “面(men)” and “フェース(face)” in BCCWJ are focused on two genre: “libraries • books” and “publisher • books”. On the other hand, the study observes the words frequency in these 13 genre from high to low which are “顔(kao)”, “面(men)” and “フェース(face)”.

The words frequency order in NLB: “顔(kao)”, “面(men)” and “フェース(face)” which are exactly the same words frequency order in BCCWJ. Meanwhile, each group of three words frequency has antonym and synonyms.

Two group of collocation: “noun + 顔(kao) / 面(men) / フェース(face)” and “noun + の (’s) + 顔(kao) / 面(men) / フェース(face)” are included wide meaning. As for “noun’s + な(na)+顔(kao) / 面(men) / フェース(face)” group is included more abstract meaning. Also, both groups of “noun + 顔(kao) / 面(men) / フェース(face)” and “noun + の (’s) + 顔(kao) / 面(men) / フェース(face)” have overlap meanings. “顔(kao)”, “面(men)” and “フェース(face)” these three groups don’t have many common forms of collocation; however, “顔(kao)” and “面(men)” have 74 common forms of collocation.

Keywords: corpus, collocation, 顔(kao), 面(men), フェース(face)

コーパスから見た「顔」「面」「フェース」

—ジャンルとコロケーションを中心に—

李毓清

実践大学言語センター講師

要旨

本稿は二つコーパス（「BCCWJ」と「NLB」）を使って「顔」「面」「フェース」の各ジャンルの使用頻度とそれらのコロケーションを比較したい。

研究方法は、「BCCWJ」において、「顔」「面」「フェース」の使用頻度数を統計し、13種類のジャンルにおいて三語の表現と使用頻度順を個別に分析する。「NLB」においては、「名詞/名詞の／名詞的な+顔」、「名詞/名詞の／名詞的な+面」、「名詞/名詞の／名詞的な+フェース」のグループに分けて、各グループの使用頻度、コロケーションの名詞、コロケーションの意味用法とコロケーションの共通用語を究明したい。

調査の結果「BCCWJ」において、「顔」「面」「フェース」三語とも13種類のジャンルの「図書館・書籍」、「出版・書籍」の項目に集中している。なお、13種のジャンルの使用頻度順はともに「顔」>「面」>「フェース」である。

「NLB」（全体）において「顔」「面」「フェース」の使用頻度順は「BCCWJ」のものと一致する。グループ別の頻度順はそれぞれで全体と一致するものと異なるものがある。「名詞+顔/面/フェース」と「名詞+の+顔/面/フェース」のコロケーションの名詞の分野は広く、「名詞的+な+顔/面/フェース」では多くが抽象的概念を記す。「名詞+顔/面/フェース」と「名詞+の+顔/面/フェース」のコロケーションの意味用法には重なる部分が多い。「顔」「面」「フェース」の三語での重なり語は少ないが、「顔」と「面」の二語では重なり語数が74に達する。

キーワード：コーパス、コロケーション、顔、面、フェース

コーパスから見た「顔」「面」「フェース」

—ジャンルとコロケーションを中心に—

李毓清

実践大学言語センター講師

1、はじめに

日本語の語彙には和語、漢語、外来語がある。泉(1992)によると、「和語」(固有日本語、やまとことば)は、日本語の中にもとからあった語(と、いう、私など)であり、「漢語」(字音語)は漢字で書かれ、必ず音読みされる語(原色、例など)で、「外来語」(洋語)は和語と漢語を除いたもの(イラスト、パンツなど)である。

一般的に日本語の文章および会話表現において、類似している意味を持つ和語・漢語・外来語が並行的に存在している。例えば「幸せ、幸福、ハッピー」「取り消し、解約、キャンセル」「顔、面、フェース」などの類義語¹が見られる。それぞれの語がどのように異なるニュアンスを表すのか、日本語学習者にとっては、わかりにくいものの一つであると思われる。

本稿は、『Goo 辞典』²、『明鏡国語辞典』および類語辞典(『分類語彙表増補改訂版 2004』)における類義語「顔」「面」「フェース」の語義を調べ、三語の類似点と相違点を分析すると同時に、各辞典の解釈の差異も比較する。さらに、コーパスを使って「顔」「面」「フェース」の各ジャンルの使用頻度とそれらのコロケーションを比較したい。

コーパスは、KOTONOHA「現代日本語書き言葉均衡コーパス(Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese)」(国立国語研究所で開発されたコーパス、以下「BCCWJ」)および NINJAL-LWP for BCCWJ(国立国語研究所と Lago 言語研究所が共同開発したオンライン検索システム、以下「NLB」)を使用した。前者は13種に及ぶメディア/ジャンル別のデータが収録されているうえ、サンプル数が17万件以上あり、現代日本語の書き言葉の幅ひろい範疇を研究することができる。そして、後者は名詞や動詞などの内容語の共起関係や文法的振る舞いを表示できるので、それぞれの文法用法が理解できる。

研究方法は次のとおりである。「BCCWJ」においてはメディア/ジャンルを区別せずに、全体を一つのデータとして、「顔」「面」「フェース」の各用例を抽出し、使用頻度数を統計する。そして13種類のメディア/ジャンルにおいて

¹類義語：よく似た意味を持つ複数の言葉「美しい・綺麗」、「児童・生徒・学生」等は、意味は似通っているが、語感、ニュアンス、使う場面、文脈は少しずつ異なって用いられる。『新・初めての日本語教育 基本用語事典』

² 『Goo 辞典』 : <http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/jn2>

三語の表現と使用頻度順位を個別に分析する。「NBL」においては、「名詞/名詞の/名詞的な+顔」「名詞/名詞の/名詞的な+面」「名詞/名詞の/名詞的な+フェース」などのグループに分けて、各グループの使用頻度、コロケーションにおける名詞の種類、意味用法および共通する語を究明したい。

調査の結果、三種の辞典で「顔」の語義において共にあげられた項目は「顔の基本義」「名誉」「知名度」の三つで、「面」は「もの（仮面、防具）」「空間」「助数詞」の三つで、「フェース」は「顔の基本義」一つである。

「BCCWJ」のジャンルにおいて「顔」「面」「フェース」の使用頻度順は「顔」>「面」>「フェース」であり、三語とも13種類のメディア/ジャンルの「図書館・書籍」および「出版・書籍」の項目に集中している。

「NLB」においては、全体の頻度順は「BCCWJ」と同じように「顔」>「面」>「フェース」の順位であり、各グループ別の頻度順はそれぞれ全体と一致するものと異なるものがある。「名詞+顔/面/フェース」と「名詞+の+顔/面/フェース」のコロケーションにおける名詞の分野は広く、「名詞的+な+顔/面/フェース」では多くが抽象的、社会的な意味を持つ語である。「名詞+顔/面/フェース」と「名詞+の+顔/面/フェース」のコロケーションの意味用法には重なる部分が多い。また、「顔」「面」「フェース」の三語での重なり語は少ないが、「顔」と「面」の二語では重なり語数は74に達する。

「BCCWJ」により「顔」「面」「フェース」の各ジャンルの使用頻度を、「NLB」を用いてそれらのコロケーションの名詞、意味用法を明らかにすることにより、その結果が日本語学習者に有用となることを期待する。

2、先行研究

(1)「顔が広い」、(2)「私生活の面でも問題はない」、(3)「ポーカーフェース」等の身体語彙に関する用法が日常生活の会話でよく見られる。(1)の「顔」は豊富な人脈を、(2)の「面」は抽象的概念である方面を、(3)の「フェース」のは容貌の意味を表す。

村田(1996)は単語レベルの意味拡張において、英語と日本語で共通点と相違点を比較した結果、「顔/face」を見る限りでは英語のほうが圧倒的に語義が多くなっていると論じた。そして、「顔/face」について日英二語共通の語義には「顔、表情、有名人、体面」があり、英語のみの語義には「前面、額面、書体、仮面」が、日本語のみの語義には「代表」があるとしている。

尾野治彦(2012)は、「顔」に関わる「視覚体験的名詞」表現には「顔」「表情」「顔立ち」「顔付き」「面」「面持」「色」の豊かな用法があると論じていて、日本語では<顔>の<見え(顔を用いた表現:顔立ち、顔付き、顔ぶれなど)>の多様な表現が有るのに対して、英語では<face>を表す表現が乏しく、このことは、<face>が人の心理状態の<見え>の体験として捉えない現象であると述べている。

以上を整理すると、「意味拡張」と「視覚体験的名詞」という異なる観点から「顔/face」を分析した結果、前者は英語のほうが多く、後者は日本語のほうが豊富であることがわかった。

田中・ケキゼ (2005) は、認知言語学の面から顔を表す概念について日本語の「顔」とロシア語の「лицо」を比較した。二者に共通する用法は「身体部分、容貌や表情の概念」「全体を代表する」「個性」「人・物の側面」「名誉」であり、異なる用法は「人脈」(日本語での用法)と「個人そのもの」(ロシア語での用法)である。

有菌 (2008) は、分解可能な慣用表現の構成要素となる身体部位詞の意味拡張に焦点を当て、各身体部位詞を究明した。そして、顔が内的心情を外部に表すという機能的側面に基づき、メトニミーによって<表情>を表すとともに、身体における重要性、社会的重要性との類似性に基づき、メタファーによって<名誉>をも表していると述べている。

以上の文献は、単に顔一つ或いは「顔/face」の二者を対照した研究結果である。「顔」「面」「フェース」の三語を一步進んで理解するために、本研究では辞典を用いて三類義語の語義を比較分析する。辞典は『Goo 辞典』、『明鏡国語辞典』(2008)、『分類語彙表増補改訂版』(2004)を使用した。『Goo 辞典』は27万語以上を収録した、無料で使える最大級の辞書サービスであり、最新用語も定期的に追加している。『明鏡国語辞典』は編纂方針として、日常生活で頻繁に用いられる重要語には特に用例を多く載せている。そして、『分類語彙表増補改訂版』は類義語辞典の代表作だと言える。

三種の辞典における類義語「顔」「面」「フェース」の解釈と分析を下記の2.1から2.3にまとめる。

2.1 『Goo 辞典』における「顔」「面」「フェース」の語義

2.1.1 顔の語義

『Goo 辞典』では「顔」の語義は「名詞」と「接尾語」に分類されている。「名詞」には8つ、「接尾語」には1つの語義がある。(表2.1に示す。)

(1)～(3)の語義は「顔」の基本義である頭部、容貌、表情を表し、(4)～(8)までの語義は「顔」の意味拡張である。例えば(4)は人・成員を、(5)は名誉を、(6)は知名度を、(7)は代表を、(8)は空間の表面の語義をそれぞれ表す。(9)は接尾語で動詞の連用形等について、表情、様子であることを表す。

2.1.2 「面」の語義

「面」の語義も名詞と接尾助数詞の二項目に分けられる。名詞に属する下位分類は八項目で、二者の内容を整理すると、(1)が「顔」の基本義である以外、他の語義は全て「顔」の意味を拡張したもので、(2)、(3)はかぶりもの

を、(4)は頭部を撃つことを(5)、(6)、(7)は空間の表面を表す。(8)は抽象的な概念である「方面」を指し、(9)は数える単位の助数詞を示す。(表2.1に表す。)

2.1.3 「フェース」の語義

「フェース」の語義は4つあり、(1)が「顔」の基本義を表す他に、(2)(3)はそれぞれ空間の面を示し、(4)は経済に関する用語となっている。「顔」、「面」の語義数と比べて「フェース」はそれほど多くない。

『Goo辞典』における「顔」「面」「フェース」の語義内容を表2.1に示す。

表2.1 『Goo辞典』における「顔」、「面」、「フェース」の語義

No	項目	顔	面	フェース
1	名詞	頭部の前面。 目・口・鼻などのある部分。 つら。おもて (顔の基本義)	顔。「面のいいのを鼻に掛ける」 (顔の基本義)	顔、容貌、顔付き 「ファニーフェース」、「ポーカーフェース」(顔の基本義)
2		顔形、顔立ち、容貌 (顔の基本義)	顔に付けるかぶりもの。多くは人物・動物等の顔をかたどったもので、神楽、舞楽、能、狂言やおもちゃ等に使われる。(もの)	登山で、大きく広がった傾斜の岩場 (空間)
3		表情・顔付き (顔の基本義)	顔面または頭部を保護するために付ける防具。 剣道の面頬、野球の捕手が付けるマスクなど(もの)	ゴルフで、クラブヘッドの打球面 (空間)
4		列座する予定の人。顔触れ。 (人・成員)	剣道の技の一。頭部を撃つこと(こと)	額面、券面 (経済用語)
5		社会に対する体面・名誉。 (名誉)	物の外側の平らな広がり。 表面(空間)	
6		一定の社会・地域における知名度、勢力。(知名度)	数学で、線が運動した時にできる、広がりはあるが厚さのない図形。平面と曲面が有る。「面に垂直な直線」 (空間)	
7		◆ある組織や集団を代表するもの。目立つ部分。 (代表)	建築で角材の稜角を削り落としてできる部分。切り面、几帳面等(空間)	
8		物の表面(空間)	方面。資金の面で援助する。	

			(抽象的概念)	
9	接尾語	「接尾」(V二～「顔」) 動詞の連用形等について、其のような表情、様子であることの意を表す。「心得顔」、「したり顔」、「人待ち顔」、「得たり顔」	「接尾」助数詞。鏡、琵琶、硯、能面、仮面、碁盤等、平たいものを数えるのに用いる。「琴一面」「三面のテニスコート」	

表 2.1 からわかるように、三語の語義には重なりもあるし、ずれの部分も見られる。共通する語義は「顔」の基本義と「空間」の二つである。(「顔」の基本義：顔の (1) (2) (3) と面の (1)、フェースの (1)。「空間」：顔の (8)、面の (5) (6) (7) とフェースの (2) (3))そして、「顔」と「フェース」の間には「容貌」「顔付き」の二項目の重なりが見られる。

なお、三語で個別的に使われている語義は「顔」の (4) 人 (成員)、(5) 体面・名誉、(6) 知名度、(7) 代表、(9) 接尾語の 5 つ、「面」の (3)、(4) もの、(5) こと、(8) 方面 (抽象的概念)、(9) 助数詞の 5 つ、「フェース」の経済用語である額面・券面の 1 つである。これを図 2.1 に示す。

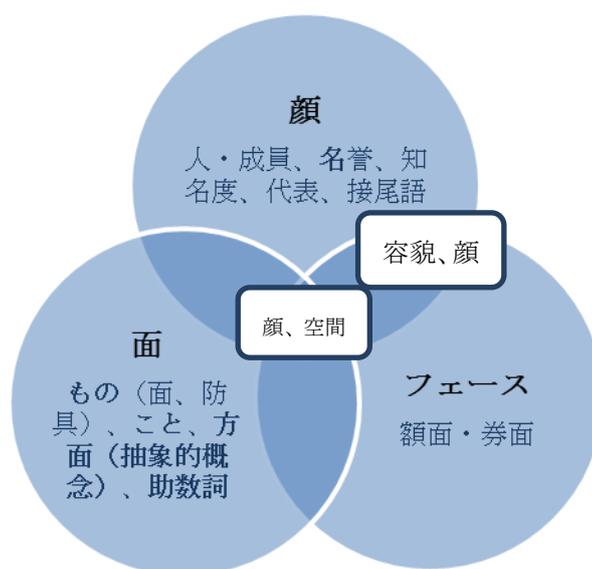


図 2.1 『Goo 辞典』における「顔」「面」「フェース」語義の比較

2.2 『明鏡国語辞典』における「顔」「面」「フェース」の語義

2.2.1 「顔」の語義：

『明鏡国語辞典』(以下『明鏡』)には「顔」の語義が7つある。表 2.2 に示す。

(1)～(3)は「顔」の基本義を、(4)～(7)はそれぞれ名誉、態度、知名度、代表の意味拡張を表す。

2.2.2 「面」の語義

「面」の語義は名詞五項目と造語二項目に分けられている。詳しい内容を表 2.2 に示す。

2.2.3 「フェース」の語義

「フェース」の語義は三つあり、(1) は顔の基本義を、(2) および (3) は前述の『Goo 辞典』の内容と類似しており、空間の意味拡張を表す。

『明鏡』において三語は (1) 項目 (頭部の前面目・鼻・口等がある部分、人の顔、顔。) の語義が類似している。そして、「顔」と「フェース」の間に「容貌」の重なりがあり、面の (4) とフェースの (2) および (3) に空間の意味拡張が見られる。

「顔」「面」「フェース」の三語にはそれぞれ独自の使い方も見られる。例えば「顔」の (4) は名誉を、(5) は態度を、(6) は知名度を、(7) は代表を、「面」の名詞の (2) と (3) はもの (仮面、防具) を、(5) は方面 (抽象的概念) を、造語の (6) は接頭辞、接尾辞を (7) は助数詞を表す。これを図 2.2、および表 2.2 に示す。

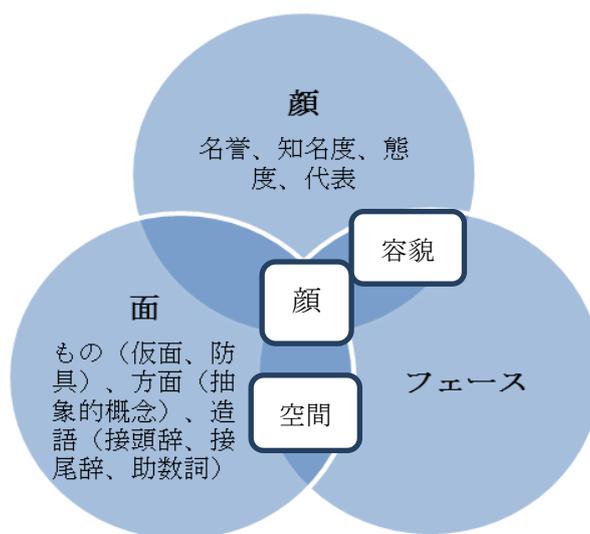


図 2.2 『明鏡』における「顔」「面」「フェース」語義の比較

表 2.2 『明鏡』における「顔」「面」「フェース」の語義

N o	顔		面	フェース
1	頭部の前面。目・鼻・口等がある部分。(顔の基本義)	名 詞	人の顔、つら。(顔の基本義)	顔、容貌、(顔の基本義)
2	顔形、容貌(顔の基本義)		顔の形に似せ、顔につける物、仮面。(もの)	登山で、広がりのある急斜面の岩壁(空間)
3	顔付き、表情		剣道で、頭や顔をおおう防具	ゴルフのクラブヘッドの

	(顔の基本義)		(もの)	打球面 (空間)
4	体面、面目、名誉 (名誉)		物の外側、広がりを持った部分。(空間)	
5	態度		ある事柄の領域。方面。「全面、反面」(抽象的)	
6	知名度、勢力、影響 (知名度)	造語	顔を合わせる、向き合う。「面会、対面」(接頭辞、接尾辞)	
7	ある組織・集団等の代表や 典型となる物(代表)		平たい物を数える語。「鏡一面」。(助数詞)	

2.2.4 『Goo 辞典』と『明鏡』との比較

調査した結果、「顔」「面」「フェース」三語の語義で『Goo 辞典』と『明鏡』で重なるのは「顔」(顔の基本義)である。また、「顔」と「フェース」の間に容貌の類似点が見られ、「面」と「フェース」の間にも空間の語義が共通している。なお、「顔」特有の語義について二種の辞典は名誉、知名度、代表の語義を記載し、「面」特有の語義に関しては、(仮面、防具)方面、助数詞を記している。これを図 2.2.1 に示す。

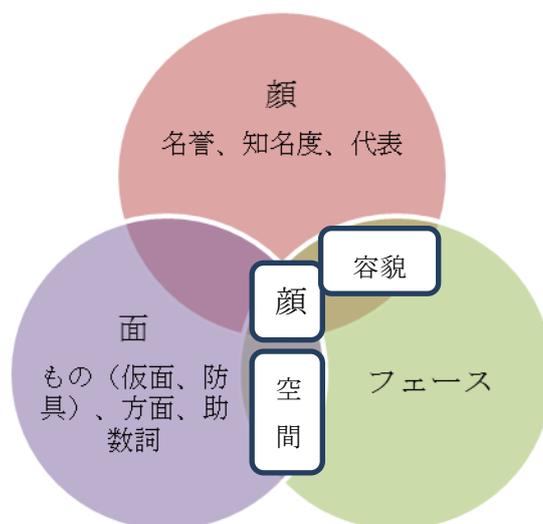


図 2.2.1 『Goo 辞典』と『明鏡』における「顔」「面」「フェース」の比較

2.3 『分類語彙表増補改訂版』(2004)

『分類語彙表』は、分類番号を用いてそれぞれの分類項目の体系的位置付けを示している。分類番号によって表される意味的範疇は、より広い概念から順に「類」「部門」「中項目」「分類項目」となっている(『分類語彙表』2004)。「顔」「面」「フェース」の分類番号、分類の構造を表 2.3 にまとめる。

表 2.3 『分類語彙表』における「顔」「面」「フェース」の各項目比較

項目	分類番号	中項目		分類項目
		数	内容	
顔	1. 3041-06	3	心	自信・誇り・恥・反省 (名誉、知名度)
	1. 3142-05		言語	評判 (名誉、知名度)
	1. 5601-11		身体	頭・目鼻・顔 (顔の基本義)
面 (めん)	1. 1720-14	6	空間	範囲・席・跡 (空間)
	1. 1750-01		空間	面・側・表面 (空間)
	1. 1962-60		量	助詞接辞 (助数詞)
	1. 4250-08		衣料	帽子・マスク (もの)
	1. 4252-01		衣料	武具・防具・刑具 (もの)
	1. 4570-05		道具	遊具・置物・像等 (もの)
フェース	1. 5601-11	1	身体	頭・目鼻・顔 (顔の基本義)

表 2.3 によれば、「顔」に<心><言語><身体>の三種の中項目（三つの分類番号）があり、「面」に<空間><量><衣料><道具>の四種の中項目（六つの分類番号）があり、「フェース」に<身体>一種の中項目（一つの分類番号）がある。「顔」の分類項目である<自信・誇り・恥・反省>と<評判>は、前述 2.1～2.2 における辞典分析での「名誉、知名度」に相当し、<頭・目鼻・顔>は「顔の基本義」に類似している。なお「面」の分類項目<範囲・席・跡>および<面・側・表面>は「空間」に、<助詞接辞>は「助数詞」に、<帽子・マスク><武具・防具・刑具><遊具・置物・像等>は 2.1～2.2 での「もの」に相当している。そして「フェース」の分類項目<頭・目鼻・顔>も「顔の基本義」に当たっていると言える。中項目の内容の部分から見ると、「面」の数が六種あり、三語の中でもっとも多い。重なりの部分については、「顔」と「フェース」の間に<身体>の頭・目鼻・顔の項目（「顔の基本義」に当たる）が見られるが、「面」は他の二語との間に重なりが見られない。これを図 2.3 に示す。

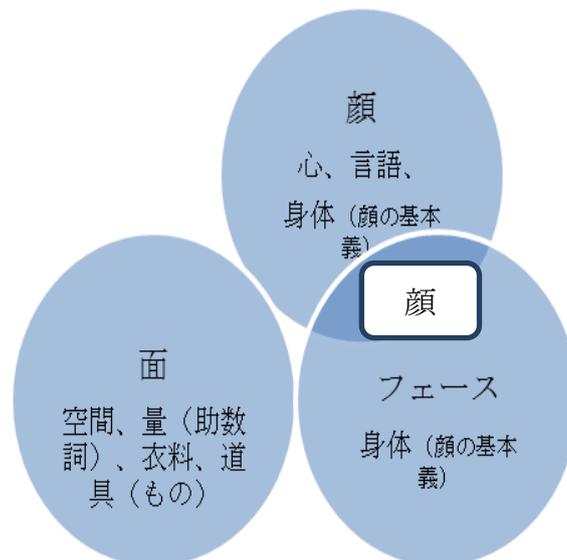


図 2.3 『分類語彙表』における「顔」「面」「フェース」語義の比較

2.4 三種の辞典の比較

2.2.4で『Goo辞典』と『明鏡』を比較した結果、「顔」「面」「フェース」の語義について、二種の辞典には一つの共通点、「顔の基本義」があった。それに対して、『分類語彙表』は2.3で論述したように、「顔」と「フェース」の間でしか重なり（「顔の基本義」）が見られないので、三種の辞典には同一の共通点がない。

また、『明鏡』と『分類語彙表』に記載されている「面」は、「顔」および「フェース」より幅広く使用されていることがわかった。

三種の辞典が共通して記載している「顔」「面」「フェース」の語義を整理すると、「顔」の語義は「顔の基本義」「名誉」「知名度」の三項目、「面」は「もの（仮面、防具）」「空間」「助数詞」の三項目、「フェース」は「顔の基本義」の一項目である。これを図2.4に示す。

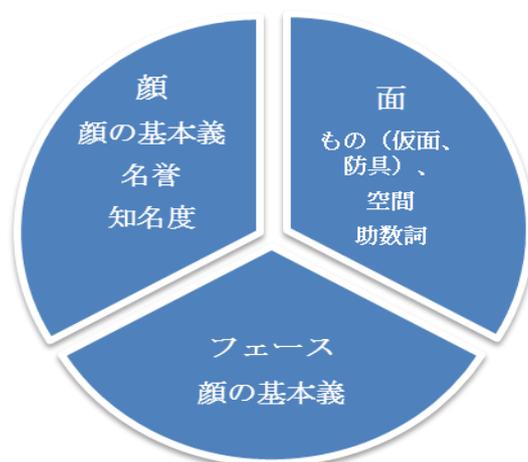


図2.4 三種の辞典における「顔」「面」「フェース」の共通解釈

前述の先行研究で村田（1996）は意味拡張において、「顔/face」を比較した結果、「face」は「顔」より圧倒的に語義が多くなっていると論じた。尾野（2012）は「視覚体験的名詞」表現には「face」より「顔」のほうが多様な表現があったことを述べている。本論で三冊辞典の考察結果は「顔」と「面」の語義は「フェース」より多くなっていることがわかった。「顔」が「フェース」より多く使用されることは尾野の研究と類似している。

3、「BCCWJ」のジャンルから見た「顔」「面」「フェース」

類義語「顔」「面」「フェース」の使用頻度がどのように異なるのか、各々のコロケーションにどのような相違点があるのか、日本語学習者はなかなか理解しがたい。

そこで、本研究はそれを解明するために、国立国語研究所が中心となって構築した「BCCWJ」を調査対象として採用し調査した。それは、新聞、書籍、雑

誌、Yahoo 知恵袋等の多様な書き言葉データを含んでいて、日本語書き言葉コーパスの代表格だと言える。調査対象としたもう一つの「NBL」は、「BCCWJ」をもとにして、各品詞との共起関係を検索することができるシステムである。

本研究は「BCCWJ」によって「顔」「面」「フェース」のジャンル別の使用頻度を、「NLB」によってグループ別のコロケーションを分析したい。

3.1 調査の手順

「BCCWJ」で「顔」「面」「フェース」の検索を実行し、三語の使用頻度調査を行う。

3.2 検索する範囲、対象語の決定

本調査は「BCCWJ」に現れている13種類のメディア/ジャンル³を区別せずに一つのデータとして検索する。そして、「顔」「面（めん）」「フェース（フェイス）」と厳密に一致する表記のみを対象とし、「face」/「カオ」/「つら」等の異表記は調査範囲に含めないこととする。

3.3 調査結果

図3.1が示すとおり、「顔」「面」「フェース」の使用頻度数はそれぞれ39,604、16,745、650であり、「顔」の使用頻度がもっとも多く、それに対して「フェース」がもっとも少ない。「顔」の頻度は「面」の約2.4倍、「フェース」の約60.9倍に達し、また、「面」も「フェース」の約25.8倍となっている。

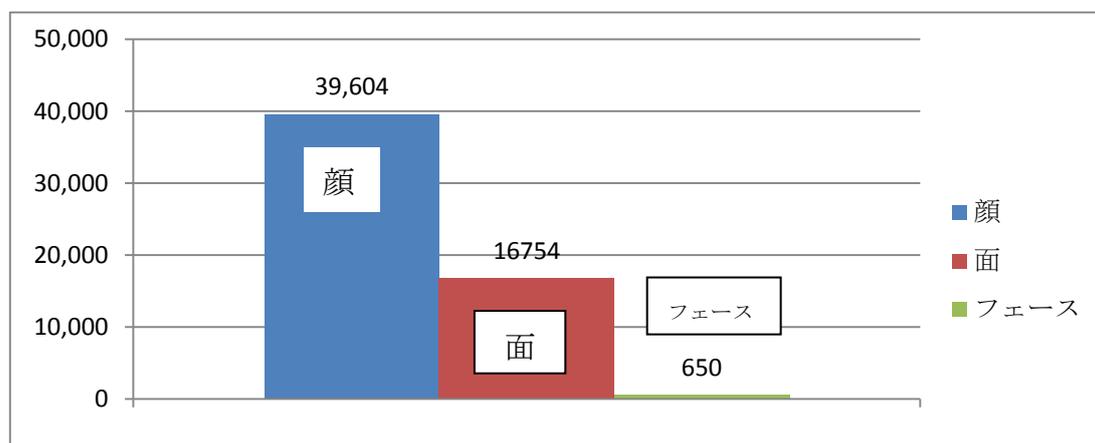


図 3.1 BCCWJ における「顔」「面」「フェース」の使用頻度

³ 13 ジャンルとは、1. 図書館・書籍、2. 出版・書籍、3. 特定目的・ベストセラー、4. 特定目的・ブログ、5. 特定目的・Yahoo 知恵袋、6. 出版・雑誌、7. 出版・新聞、8. 特定目的・韻文、9. 特定目的・広報誌、10. 特定目的・教科書、11. 特定目的・国会会議録、12. 特定目的・白書、13. 特定目的・法律である。

3.4 13ジャンルにおける「顔」「面」「フェース」の使用頻度

3.4.1 13ジャンルにおける「顔」の使用頻度

図3.1に示すように、BCCWJにおいて「顔」の使用頻度は三者の中でもっとも多く、39,604に達している。では、この頻度数は13ジャンルにどのように分布しているのか。

調査した結果、「顔」の用例は「図書館・書籍」と「出版・書籍」のジャンルにおいてかなり多く使われていて、二者ともに一万以上の頻度数で、全体の約73.6%を占めている。それから、「ベストセラー」「ブログ」「Yahoo知恵袋」「出版・雑誌」の4ジャンルでも千以上の頻度で使用されている。「出版・新聞」「韻文」「広報誌」の3ジャンルは200前後の使用頻度で、「教科書」「国会会議録」「白書」ではあまり使用されず、「法律」のジャンルでは一例も使われていない。最多6ジャンル（図書館・書籍、出版・書籍、ベストセラー、ブログ、Yahoo知恵袋、出版・雑誌、）で全体の約97.9%を占めていて、使用頻度はほぼこの6ジャンルに集中していることがわかる。以上を図3.4.1.1に示す。

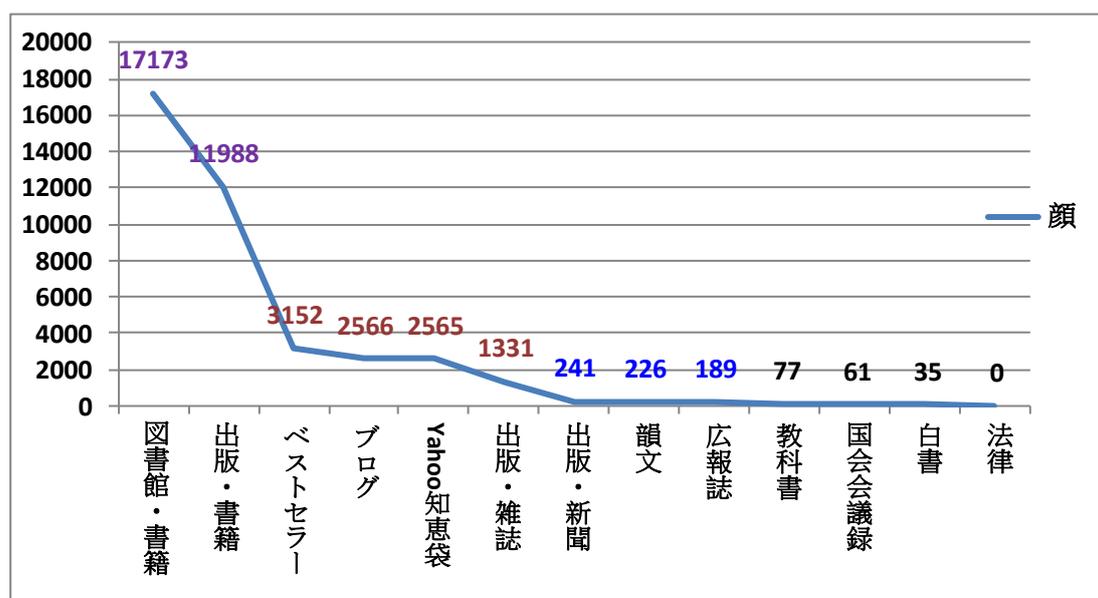


図3.4.1.1 13ジャンルにおける「顔」の使用頻度

3.4.2 13ジャンルにおける「面」の使用頻度

BCCWJにおいて「面」の使用率は「顔」ほど多くないが、16,754もの用例数がある。「図書館・書籍」と「出版・書籍」のジャンルが「顔」の調査結果と同じように、それぞれ一位と二位で、全体の約53.2%を占めている。この二者に続くジャンルは「国会会議録」と「白書」で、2ジャンルともに2000近くの頻度で使われている。「顔」における「国会会議録」と「白書」の使用率は低く、それとは対照的である。最多4ジャンルで全体の約76.0%を占めている。以上を図3.4.2.1に示す。

「ベストセラー」「ブログ」「Yahoo 知恵袋」「出版・雑誌」「出版・新聞」「広報誌」「教科書」のジャンルでは 326～931 の頻度数が見られる。「韻文」と「法律」のジャンルの使用率はそれぞれ 33 例、3 例しかない。

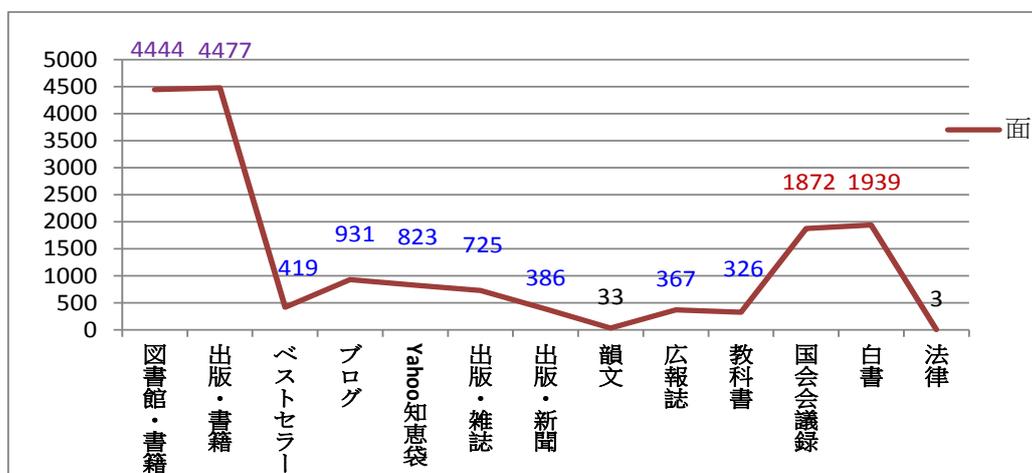


図 3.4.2.1 13 ジャンルにおける「面」の使用頻度

3.4.3 13 ジャンルにおける「フェース」の使用頻度

3つの類義語（顔、面、フェース）の中で「フェース」の使用頻度がもっとも少なく、全 650 用例の頻度は 100 以上、10～99、10 未満の 3 ランクに分けられる。

100 以上に属するジャンルは「出版・書籍」「出版・雑誌」「図書館・書籍」で、この三者で全体の約 74.8%を占めていて、「フェース」が書籍と雑誌で多く使用されていることがわかった。「ブログ」「Yahoo 知恵袋」「広報誌」と「ベストセラー」のジャンルは 10～99 の使用頻度に属し、「新聞」「国会会議録」「白書」の 3 つのジャンルにおいては使用率がそれほど高くなくすべて 10 未満のランクに属する。「韻文」「教科書」「法律」のジャンルでは全然使用されていない。

「フェース」の使用状況は最多の三つのジャンルに集中している（約 74.8%）。なお「顔」の状況と類似していて、最多六つのジャンルで全体のほとんどを占めている（フェース：約 96.2%、顔：約 97.9%）。以上を図 3.4.3.1 に示す。

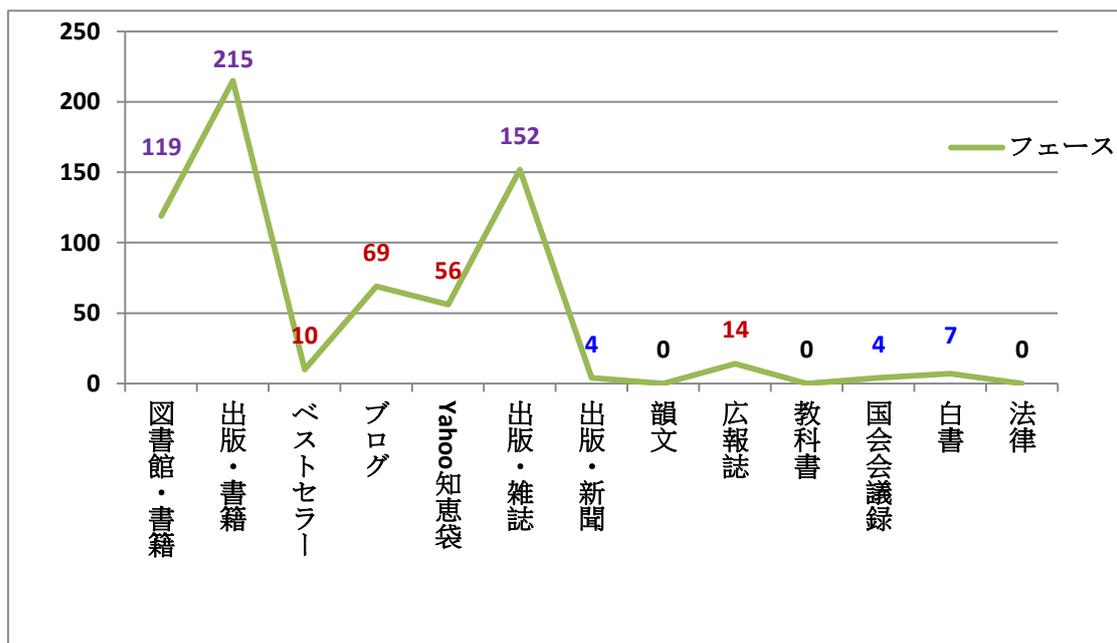


図 3.4.3.1 13 ジャンルにおける「フェイス」の使用頻度

3.4.4 13 ジャンルの考察と分析

3.4.1、3.4.2 および 3.4.3 で考察したとおり、「顔」は「法律」のジャンル以外の 12 項目に認められ、「面」は全 13 種のジャンルで使われている。「フェイス」は 10 種のジャンルに見られ、「韻文」「教科書」「法律」の三つのジャンルには見られない。また、「法律」のジャンルでは、「面」のみで、「顔」と「フェイス」はまったくなかった。三者のジャンル毎の出現数をまとめれば、「顔」は 12 種、「面」は 13 種、「フェイス」は 10 種である。

「図書館・書籍」「出版・書籍」の二つのジャンルが「顔」「面」「フェイス」を問わず、他のジャンルより数高くなる使用頻度が見られる。それに対して、法律のジャンルでは三語とも 13 種において最少の使用率で、あまり使われていないことがわかった。なお、「顔」と「フェイス」の最多六つのジャンル（図書館・書籍、出版・書籍、ベストセラー、ブログ、Yahoo 知恵袋、出版・雑誌）はそれぞれ約 97.9%、約 96.2% の使用頻度を占めていて、二者の使用状況には類似点が見られる。そして、白書、国会会議録のような改まったジャンルについて「面」は「顔」「フェイス」と違って、数多く使用されている。

「顔」「面」「フェイス」の 13 ジャンルにおけるそれぞれの使用頻度を下記の表 3.4.1 と図 3.4 に示す。

表 3.4.1 BCCWJ における「顔」「面」「フェイス」の使用頻度比較

No	BCCWJ	言葉		
	計数 - レジスター	顔	面	フェイス

1	図書館・書籍	17173 (1) ⁴	4444 (2)	119 (3)
2	出版・書籍	11988 (2)	4477 (1)	215 (1)
3	特定目的・ベストセラー	3152 (3)	419 (8)	10 (7)
4	特定目的・ブログ	2566 (4)	931 (5)	69 (4)
5	特定目的・Yahoo 知恵袋	2565 (5)	823 (6)	56 (5)
6	出版・雑誌	1331 (6)	725 (7)	152 (2)
7	出版・新聞	241 (7)	386 (9)	4 (9)
8	特定目的・韻文	226 (8)	33 (12)	0 (11)
9	特定目的・広報誌	189 (9)	367 (10)	14 (6)
10	特定目的・教科書	77 (10)	326 (11)	0 (11)
11	特定目的・国会会議録	61 (11)	1872 (4)	4 (9)
12	特定目的・白書	35 (12)	1939 (3)	7 (8)
13	特定目的・法律	0 (13)	3 (13)	0 (11)
計		39604	16745	650

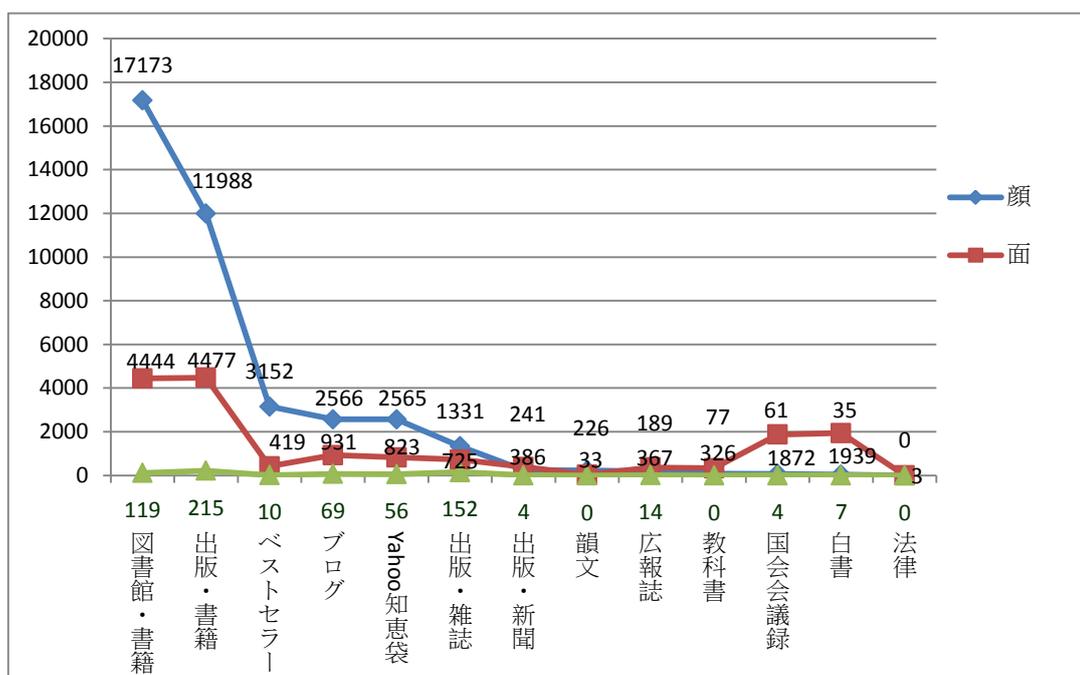


図 3.4 BCCWJ における「顔」「面」「フェース」の使用頻度比較図

表 3.4.1 から次のようにまとめられる。

- (1) 総使用頻度数は「顔」>「面」>「フェース」の順序である。
- (2) 13 種のジャンルにおいて、「顔」は 12 種、「面」は 13 種、「フェース」は 10 種がそれぞれ使用されている。
- (3) No1「図書館・書籍」、No2「出版・書籍」の項目は、三語すべてにおいて

⁴ () は頻度順位を表す

て上位3位に入っている。

- (4) No4「特定目的・ブログ」とNo5「特定目的・Yahoo知恵袋」の項目は、三語において上位4位～6位となっている。
- (5) No1「図書館・書籍」～No6「出版・雑誌」の全体比率は三語すべてで70%以上を占めていて、「顔」と「フェース」の二語では95%以上を占めている。
- (6) No1「図書館・書籍」～No6「出版・雑誌」およびNo8「特定目的・韻文」の使用頻度数はすべて「顔」>「面」>「フェース」である。
- (7) No7「出版・新聞」、No9「特定目的・広報誌」～No12「特定目的・白書」の使用頻度数はすべて「面」>「顔」>「フェース」である。
- (8) No11の「特定目的・国会会議録」とNo12の「特定目的・白書」は、「顔」では11位と12位、「フェース」では9位と8位であるのに対し、「面」では4位と3位となっており、「面」の使用率が「国会会議録」「白書」において他の二語より使用率が高い。
- (9) No13「特定目的・法律」のジャンルは、「面」でしか使用されず、件数も極めて少ない。

図3.4 BCCWJにおける各ジャンルの「顔」「面」「フェース」の頻度比較以上を整理したものが表3.4.2である。

表3.4.2 各ジャンルにおける「顔」「面」「フェース」の使用状況

項目	内容	顔	面 (めん)	フェース
1	総合使用頻度数	39604	16745	650
2	総合使用頻度順位	1	2	3
3	使用ジャンル数	12	13	10
4	「図書館・書籍」での順位	1	2	3
5	「出版・書籍」での順位	2	1	1
6	「特定目的・ブログ」での順位	4	5	4
7	「特定目的・Yahoo知恵袋」での順位	5	6	5
8	「特定目的・法律」での使用頻度数	0	3	0
9	No1「図書館・書籍」～No6「出版・雑誌」の全体比率	97.9%	70.6%	95.6%
10	特定目的・国会会議録の順位	11	8	4
11	特定目的・白書の順位	12	9	3
12	使用頻度順位	No1「図書館・書籍」～No6「出版・雑誌」、No8「特定目的、韻文」における使用頻度数		
13		No7「出版・新聞」、No9「特定目的・広報誌」～No13「特定目的・法律」における使用頻度数		

4. 「NLB」のコロケーションから見た「顔」「面」「フェース」

「NLB」は次のように説明されている。

「NINJAL-LWP for BCCWJ(以下、NLB)は国立国語研究所(以下、国語研)が構築した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)を検索するために、国語研とLago 研究所が共同開発したオンライン検索システムです。レキシカルプロファイリングという手法を用いたコーパス検索ツールで、名詞や動詞などの内容語の共起関係や文法的振る舞いを網羅的に表示できるのが最大の特長です。」(NINJAL-LWP for BCCWJ)

上述の通り、NLB は BCCWJ をもとにして開発されたコーパスで、文法用法の分析において、とても役に立つものだと言える。本研究はこのコーパスを用い、「顔」「面」「フェース」の使用頻度数、「(名詞/名詞+の/名詞的+な) 顔」「(名詞/名詞+の/名詞的+な) 面」「(名詞/名詞+の/名詞的+な) フェース」のグループ毎の三語の使用頻度数、およびコロケーションを究明する。

「名詞/名詞+の/名詞的+な」の三つのグループにおいて類義語「顔」「面」「フェース」のコロケーションで共起するのはすべて名詞である。三つのグループ(「名詞/名詞+の/名詞的+な」と三語(「顔」「面」「フェース」)との使用頻度の状況とコロケーションの名詞、意味用法、共通語を明らかにしたい。

4.1 全体の使用頻度

調査した結果、「NLB」において、「顔」「面」「フェース」のそれぞれの頻度数は 35,496、7,949、514 で、「顔」の頻度は「面」の約 4.5 倍、「フェース」の約 69.1 倍に達している、三語中もっとも多い。「面」の頻度も「フェース」の約 15.5 倍に達している。図 4.1 が示すように、使用頻度の順序は「顔」>「面」>「フェース」で、前述 3.3 (BCCWJ) での調査結果と一致する。

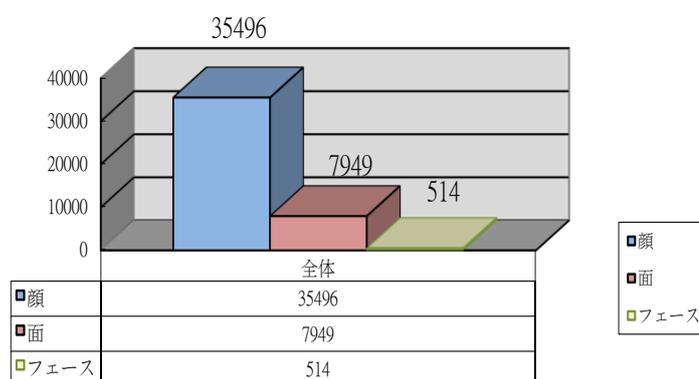


図4.1 全体グループにおける「顔」、「面」、「フェース」の使用頻度

4.2 「(名詞/名詞+の/名詞的+な) 顔」

4.2.1 「名詞+顔」

調査した結果、「名詞＋顔」の使用頻度数は73で、48項目のコロケーション中、上位10位であるのは「丸顔、笑い顔、心配顔、醤油顔、澄まし顔、様顔、夕べ顔、浮き浮き顔、派手顔、活火山顔」である（「浮き浮き顔、派手顔、活火山顔」を除いて、すべて2以上の使用頻度である）。上位10位の共起語から見ると、「名詞＋顔」の名詞は、形（丸）、感情（笑い、心配）、物（醤油）、時間（夕べ）、自然現象（活火山）等幅広い範囲で使われている。

4.2.2 「名詞＋の＋顔」

「名詞＋の＋顔」の使用頻度数は4,713で、1,300項目のコロケーション中、上位10位であるのは、「自分の顔、人の顔、男の顔、相手の顔、女の顔」（以上、頻度数100以上）、「人間の顔、皆の顔、母の顔、子供の顔」（以上、頻度数50以上）、および「少年の顔」（頻度数47）である。

上位10位（使用率は全体の約27.6%）のコロケーションの名詞には「人称名詞」が高い比率で現れ、更に上位50位（使用率は全体の約47.9%）のうち、「人称名詞」に属するのは「女性、母親、先生、父、神、夫、少女、妻、娘、孫、父親、親、兄、夫人、社長、青年、お母さん、ママ、伯父」などがある。以上のように、「名詞＋の＋顔」のコロケーションの名詞は、主に「人称名詞」が中心となっていることがわかった。

4.2.3 「名詞的＋な＋顔」

「名詞的＋な＋顔」の使用頻度数は34で、25項目のコロケーションは使用数の順位別に次のとおりである。

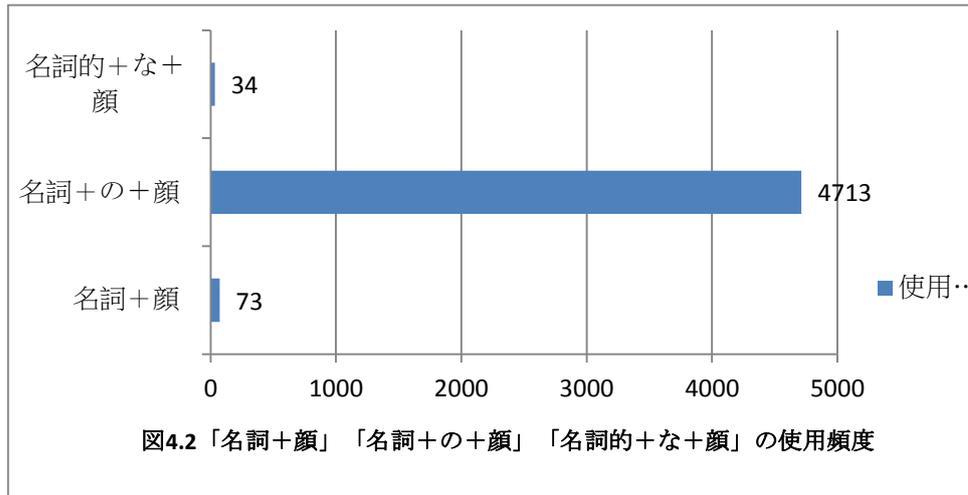
「魅力的」（使用頻度数4）な顔、「理知的」な顔（同3）、「個性的、典型的、印象的、平均的」な顔（同2）、「代表的、南国的、否定的、基本的、多面的、好意的、官僚的、対照的、庶民的、政治的、漫画的、痴呆的、精力的、肥料の、裏方的、身体的、都会的、野性的、鋭角的」な顔（同各1）である。

「名詞的＋な＋顔」のコロケーションの名詞は抽象的、社会的な意味を持つ語意を表す漢語がほとんどで、外来語が1例もない。

4.2.4 まとめ

(1) 使用頻度：

「名詞＋顔」は73で、「名詞＋の＋顔」は4,713で、「名詞的＋な＋顔」は34である。「名詞＋の＋顔」の使用率は他の二者より多く使用されていて、「名詞＋顔」「名詞的＋な＋顔」の使用状況はそれほど多くない。図4.2に示す。



(2) 意味用法

「名詞+顔」にはおおよそ表情か容貌・様子（心配/笑い/丸など）を表す傾向が認められ、「名詞+の+顔」は容貌・様子（男/女/子供など）、知名度、代表（地方/家族など）を表し、「名詞的+な+顔」は容貌・様子（魅力的/理知的/典型的/印象的など）が多く、代表（都会的/代表的など）も見える。

4.3 「(名詞/名詞+の/名詞的+な) 面」

4.3.1 「名詞+面」

「名詞+面」の使用頻度数は215で、120項目のコロケーション中、使用頻度が上位10位となっているのは、「数字面⁵、資金面、ソフト面、上げ面⁶、文化面、ハード面、マイナス面、環境面、生活面、結晶面」である。これらの名詞には対義語（ソフト、ハード）、複合語（すり上げ）、社会的な意味を持つ語（文化、環境、生活）と具体的な物（結晶）があり、対義語、複合語、社会的な意味を持つ語は「面」と共起することにより、「方面」を表し、「結晶、数字」は「面」と共起し（一面、二面など）、「表面」を表す。

また、上位10位に入らないが、人称および動物名詞（女面、男面、狐面）や遊具名詞（仮面）などもある。調査データによれば、「名詞+面」の意味用法は抽象的概念である「方面」がもっとも多く、「表面」「仮面」がこれに続く。

4.3.2 「名詞+の+面」

「名詞+の+面」の使用頻度数は2,046で、811項目のコロケーション中、使用頻度上位10位であるのは「全ての面、2つの面、他の面、別の面、鬼の面、コストの面、文化の面、仕事の面、経済の面、プラスの面」で、すべてが

⁵ 数字面はアラビア数字（1,2,3,16など）と漢数字（一、四、五等）をあわせる用語を指す。

⁶ あげ面は「面すり上げ面」の略語で、剣道の用語である。『月刊剣道日本2005、スポーツ』

頻度数 15 以上である。この形のコロケーションの意味には「名詞＋面」に類似し、抽象的、社会的な意味を表す「方面」、空間を表す「表面」、遊具を表す「仮面」のほかに、顔を表す「容貌」もある。

そして、使用範囲は「名詞＋面」より広く、使用頻度数も、コロケーションの項目数も「名詞＋面」より多い。例えば、空間を表す「表面」のコロケーションの名詞は「自然現象」(水/雪/川/池/海/石/湯/崖/氷/泉/沼/湖水/月/満月など)、「物」(鏡/板/刃/鎧/石鹸など)、「位置」(上/下/壁/左側/左右/底/傷口/凸凹など)、「数量」(三つ/四つ/七つなど)の範疇がある。さらに、遊具を表す「仮面」では人物(鬼/狂女など)、動物(キツネ/天狗/蛙など)があり、顔を表す「容貌」では、人称名詞(老人/男/博士/母/青年/百官/粹人など)が多く使われている。

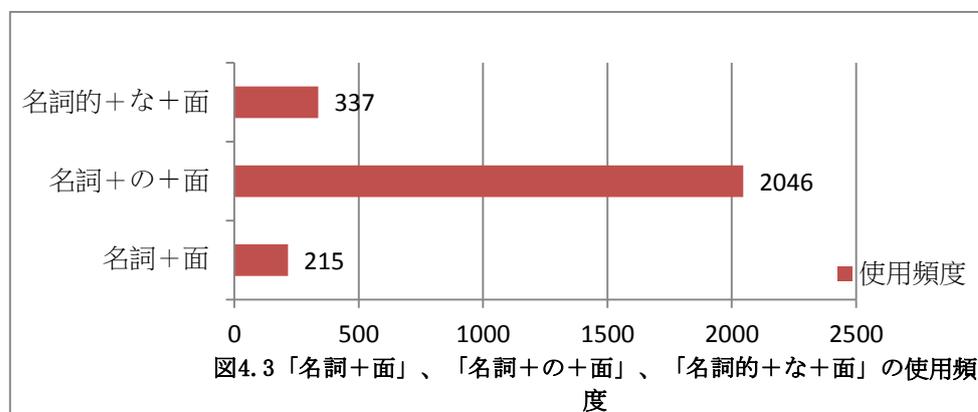
4.3.3 「名詞的＋な＋面」

「名詞的＋な＋面」の使用頻度は 337 で、147 項目コロケーション中、使用頻度上位 10 位であるのは「経済的、精神的、技術的、質的、否定的、積極的、財政的、女性的、医学的、物質的」(使用頻度はすべて 5 以上)である。基本的にはこの形のコロケーションは和語と外来語もあるが、ほとんどが漢語である。前述 4.3.2 の自然現象、物、位置、数量、動物などの名詞は見られない。また、意味用法はほとんど抽象的概念を表す「方面」で、「容貌・様子」(悪魔的な面)は僅かである。

4.3.4 まとめ

(1) 使用頻度：

「名詞＋面」「名詞＋の＋面」「名詞的＋な＋面」それぞれの使用頻度は 215、2046、337 で、「名詞＋の＋面」の使用率がもっとも多い。これを図 4.3 に示す。



(2) 意味表現

「名詞＋面」と「名詞＋の＋面」のコロケーションはともに抽象的概念の「方面」、空間の「表面」、遊具の「仮面」を含んでいるが、使用範囲、頻度数、コロケーション数は「名詞＋の＋面」のほうがずっと多い。また、「名詞的＋な＋面」のコロケーションは主に「方面」の意味用法で、「容貌・様子」が少ない。なお、一般的に漢語が使われていて、和語と外来語はあまり見られない。

4.4 「(名詞/名詞＋の/名詞的＋な) フェース」

4.4.1 「名詞＋フェース」

「名詞＋フェース」の使用頻度は178である。49項目のコロケーション中、使用頻度上位10位であるのは、「クラブフェース、ポーカーフェース、フルフェース、ダブルフェース、ベビーフェース、バックフェース、フロントフェース、現行フェース、数字フェース、オープンフェース」である。ゴルフ(クラブフェース、オープンフェース)、ファッション(ダブルフェース)、車かバイク(フロントフェース、フルフェース、現行フェース)に関するコロケーションが見られる。

以上の用例によれば、「現行フェース」「数字フェース」を除いて、この形はほとんど外来語と組み合わせて使われている。実際、49項目中、外来語と共起するコロケーションは36項目に達し、使用頻度も約88.2%を占めている。

意味用法は「クラブフェース」「フロントフェース」「数字フェース」のような空間の「表面」と「ポーカーフェース」「ベビーフェース」に代表される容貌・様子がある。

4.4.2 「名詞＋の＋フェース」

「名詞＋の＋フェース」の使用頻度は22だけで、20項目のコロケーション中、「ワゴンのフェース、時計のフェース、アドレスのフェース(ゴルフ用語)、サロンのフェース(フェイス枕の略称)、ドライバーのフェース、ブラックのフェース、ローダーのフェース(ローダーはエステローダー化粧品の略称)、位のフェース⁷、前者のフェース、微粒子のフェース、柄物のフェース、満点のフェース、独自のフェース、理想のフェース、発色のフェース、真似のフェース、肌色のフェース、透明のフェース、駅前のフェース、黒のフェース」である。「ワゴン」、「時計」以外の頻度は1しかない。

このコロケーションの名詞には、外来語、漢語、和語があり、使用頻度もほ

⁷ 「位フェース」の用例は下記のもので、「位」は程度を表し、「フェイス」は「フェイスマスク」の略語である。

◆週2回は美容液が滴り落ちる **位のフェイス** マスクをします。(Yahoo!知恵袋, 2005, コスメ、美容)

とんど類似している。意味用法は空間を表す「表面」（ワゴンのフェース、時計のフェース、ブラックのフェース、微粒子のフェースなど）、顔を表す「容貌・様子」（前者のフェース、独自のフェース、肌色のフェース、透明のフェース、黒のフェースなど）がある。

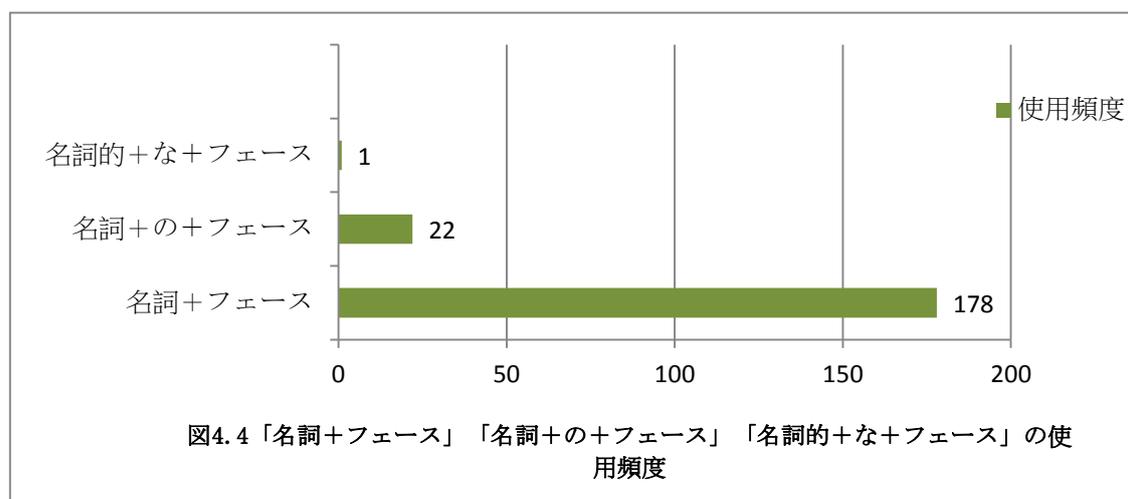
4.4.3 「名詞的+な+フェース」

「名詞的+な+フェース」は、使用頻度数もコロケーションも、「個性的」なフェース（車に関する用語）の1つしかない。「個性的」は漢語で、抽象的概念を表す。

4.4.4 まとめ

(1) 使用頻度：

「名詞+フェース」「名詞+の+フェース」「名詞的+な+フェース」のそれぞれの使用頻度は178、22、1である。9割近くが「名詞+フェース」で（約88.6%）、「名詞+の+フェース」と「名詞的+な+フェース」のコロケーションはあまり使われていない。特に「名詞的+な+フェース」は1例しかない。以上を図4.4に示す。



(2) 意味用法

「名詞+フェース」と「名詞+の+フェース」の意味用法には、ともに空間を表す「表面」と顔を表す「容貌」があり、「名詞的+な+フェース」は容貌・様子の一項目のみである。このグループの形は外来語と共起する比率が高い。

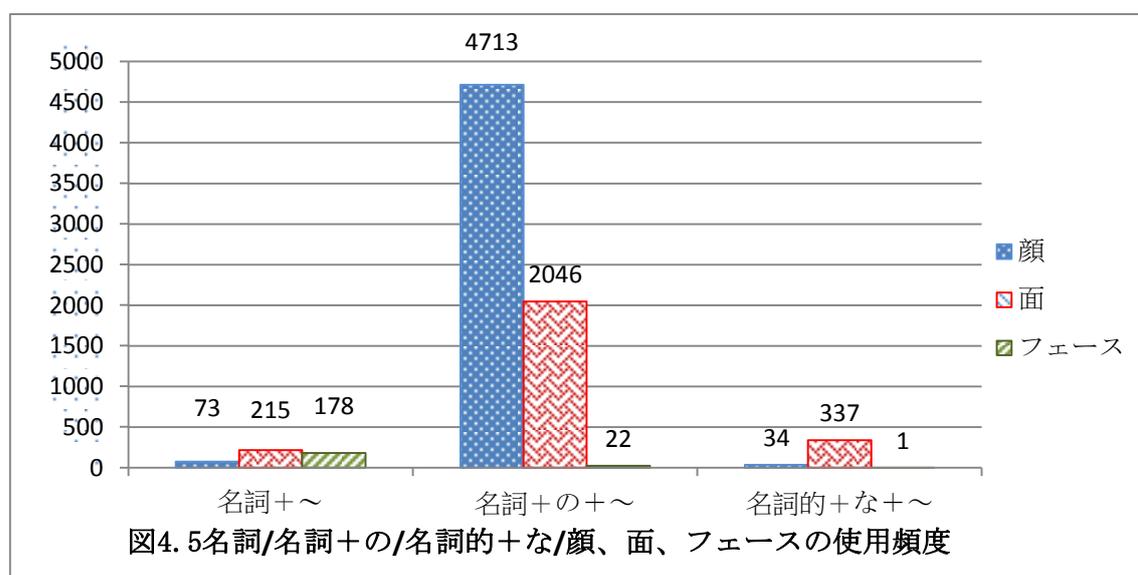
4.5 コロケーションの考察と分析

4.5.1 「(名詞/名詞+の/名詞的+な)顔、面、フェース」の使用頻度

4.2～4.4の分析により、「(名詞/名詞+の/名詞的+な)顔」「(名詞/名詞+

の/名詞的+な) 面」「(名詞/名詞+の/名詞的+な) フェース」において、「顔」は「名詞+の+顔」>「名詞+顔」>「名詞的+な+顔」の順位で、「面」は「(名詞+の+面) >「(名詞的+な+面) >「(名詞) + 面」の順位で、それぞれ使用頻度が多いことがわかった。この二語では「名詞+の+～」の形がもっとも多い。それに対して、「フェース」は「名詞+フェース」>「名詞+の+フェース」>「名詞的+な+フェース」の順位である。

「名詞+～」(～は顔/面/フェース)のコロケーションの使用頻度は「顔」と「面」はそれほど多くないのに、「フェース」は「顔」(約1.5%)および「面」(約8.2%)とは大きく相違し、約88.6%もの使用頻度があった。これを図4.5に示す。



4.5.2 「名詞+顔/面/フェース」

(1) 使用頻度

三語の名詞との共起表現の使用頻度数は、「面」(215)>「フェース」(178)>「顔」(73)で、「顔」の使用頻度がもっとも少ない。

(2) コロケーションの名詞

「名詞+顔」の名詞は、形、感情、物、人物など幅広い分野で使われていて、「名詞+面」では対義語、社会的意味を持つ語、具体的な物、人称名詞、動物名詞が使用されている。そして、「名詞+フェース」では、ゴルフ、ファッション、バイク、車に関する外来用語が多い。

(3) 意味用法

「名詞+顔」は、表情、容貌・様子を表す名詞が多い。「名詞+面」は抽象的概念である「方面」がもっとも多く、「表面」および「仮面」がそれに続く。

「名詞＋フェース」は主に外来語と組み合わせられていて、空間の「表面」と「容貌・様子」の意味用法が見られる。

(4) 共通する語

三語すべてで使われている名詞は「数字」（数字顔、数字面、数字フェース）であり、「顔」と「フェース」では「白」（白顔、白フェース）が共通的に使用されている。なお、「顔」と「面」、「面」と「フェース」の二語間には共通する語が見られない。

4.5.3 「名詞＋の＋顔/面/フェース」

(1) 使用頻度

「名詞＋の＋（顔/面/フェース）」の頻度順位は、「顔」（4,713）＞「面」（2,046）＞「フェース」（22）で、「顔」の頻度数は「面」の2倍以上、「フェース」の約200倍以上に達し、「面」および「フェース」の頻度よりずっと多い。

(2) コロケーションの名詞

「名詞＋の＋顔」の名詞は主に「人称名詞」（人、人間、母、男、女、子供など）が使われている。「名詞＋の＋面」は自然現象（水/雪/川/池/海など）、物（鏡/板等）、位置（上、下、左側など）、数量（三つ、四つなど）、人物（鬼/狂女など）、動物（キツネ/天狗など）、人称名詞（老人/博士/母/青年など）などが使用されている。そして、「名詞＋の＋フェース」は外来語（ワゴン、サロン、アドレスなど）、漢語（前者、満点、独自など）、和語（真似、肌色、駅前など）があり、使用頻度も類似している。

(3) 意味用法

「名詞＋の＋顔」のコロケーションには、容貌・様子、知名度、代表の意味用法が見られ、「名詞＋の＋面」には抽象的概念を表す「方面」、空間を表す「表面」、遊具を表す「仮面」、顔を示す「容貌・様子」があり、「名詞＋の＋フェース」には空間を表す「表面」および顔を示す「容貌・様子」がある。

(4) 共通する語

三語間の重なり語は見られないが、「顔」と「面」との重なり語は多く74に達している。それらは「母、人々、相手、青年、裏、刑事、老人、感じ、音、博士、仲間、一つ、姫、表、左、スタッフ、側、文字、印象、ルール、美術館、師、五つ、下、二つ、身、面、都市、足、歴史、昨日、地区、病気、周り、島、イメージ、表情、葉、四つ、いくつか、三つ、それぞれ、多く、太陽、内側、石、田、藍、消費、資材、浄化、蛍、バー、女史、鏡、六つ、三つ、別、民族、一つ、リスク、心、発行、どくろ、精神、鬼、逆、他、両方、雪、キツネ、投

資、般若、すべて」である。

「顔」と「フェース」の間には、「理想、独自、ドライバー、駅前、ブラック」の五つの重なり語が見られる。「顔」と「フェース」の間、「面」と「フェース」の間には重なり語が見られない。

4.5.4 「名詞的+な+ (顔/面/フェース)」

(1) 使用頻度

このグループの頻度順は「面」(337) > 「顔」(34) > 「フェース」(1) である。「面」の使用頻度数は「顔」の約10倍であり、「フェース」は一例しかない。

(2) コロケーションの名詞

三語とも名詞は主に抽象的、社会的な意味を持つ語で、漢語か和語が一般的で、外来語はほとんど使われていない。

(3) 意味用法

「名詞的+な+顔」は「容貌・様子」、「代表」の使用傾向が高く、「名詞的+な+面」は主に「方面」で、「容貌・様子」は僅かであり、「名詞的+な+フェース」には「容貌・様子」が見られる。

(4) 共通する語

三語すべてで使われている単語は「個性的」である。また、「顔」と「面」で共通しているものは「個性的、都会的、身体的、基本的、対照的、政治的、否定的」の七つがある。

4.5.2～4.5.4の内容をまとめて、表4.5に示す。

表4.5 各グループ別における「顔」「面」「フェース」のコロケーション

グループ別 項目	名詞+ 顔/面/フェース	名詞+の+ 顔/面/フェース	名詞的+な+ 顔/面/フェース
使用頻度順	面(215) > フェース(178) > 顔(73)	顔(4713) > 面(2046) > フェース(22)	面(337) > 顔(34) > フェース(1)
コロケーション の名詞	A1: 形、感情、物、 時間、自然現象 など	B1: 主に人称名詞	C1: 抽象的、社会的 な意味を持つ漢語 が多い
	A2: 数字、対義語、 社会的な意味を持 つ語、具体的な物、	B2: 自然現象、物、 位置、数量、人物、 動物、人称名詞な	C2: 抽象的概念 社会的な意味 を持つ漢語が

	人称名詞、動物名詞など	ど	多い
	A3：外来語が多い	B3：和語、漢語、外来語がある	C3：抽象的概念漢語
意味用法	A1：表情、容顔・様子	B1：容顔・様子、知名度、代表	C1：容顔・様子、代表
	A2：方面、表面、仮面	B2：方面、表面、仮面、容顔・様子	C2：主として方面容顔（僅か）
	A3：表面、容顔・様子	B3：表面、容顔・様子	C3：容顔・様子
共通する語	三語：数字	三語：無し	三語：個性的
	顔と面：無し	顔と面：74語	顔と面：7語
	顔とフェース：白	顔とフェース：5語	顔とフェース：無し
	面とフェース：無し	面とフェース：無し	面とフェース：無し

A1：名詞＋顔、A2：名詞＋面、A3：名詞＋フェース

B1：名詞＋の＋顔、B2：名詞＋の＋面、B3：名詞＋の＋フェース

C1：名詞的＋な＋顔、C2：名詞的＋な＋面、C3：名詞的＋な＋フェース

表 4.5 によると意味用法において、「名詞＋の＋顔/面/フェース」と「名詞的＋な＋顔/面/フェース」は「顔」「面」「フェース」ともに「容顔・様子」（顔の基本義）が使われている。この結果は前述 2.2.4 の二種辞典（『Goo 辞典』と『明鏡』）の比較結果と一致する。

4.5.5 全体と各グループ別における「顔」「面」「フェース」の頻度比較

4.1 で全体の使用頻度を分析したが、表 4.5 の結果を合わせて比較すると、表 4.6 に示すようになる。

表 4.6 各グループ別における「顔」「面」「フェース」の頻度比較⁸

グループ別	顔	面	フェース	順位
全体	35,496 (1)	7,949 (2)	514 (3)	顔>面>フェース
名詞＋～	73 (3)	215 (1)	178 (2)	面>フェース>顔
名詞＋の＋～	4,713 (1)	2,046 (2)	22 (3)	顔>面>フェース
名詞的＋な＋～	34 (2)	337 (1)	1 (3)	面>顔>フェース

「全体」と「名詞＋の＋～」の頻度順位は、ともに「顔」>「面」>「フェース」である。それに対して「名詞＋顔/面/フェース」と「名詞的＋な＋顔

⁸ 「()」は順位を表す

「面／フェース」は「面」がともに最多であり、「全体」および「名詞＋の＋～」とは異なる順位になっている。

5、おわりに

本研究の調査結果をまとめて、使用頻度は「BCCWJ」も「NLB」（全体）も「顔」＞「面」＞「フェース」の順位であった。そして、「BCCWJ」において、「顔」「面」「フェース」三語はともに「出版・書籍」、「図書館・書籍」のジャンルで多く使用されていて、「特定目的・法律」であまり使用されていなかった。なお、「特定目的・国会会議録」および「特定目的・白書」のジャンルにおいて、「面」はかなりの使用率が見られたが、「顔」「フェース」での使用頻度は極めて低かった。

「NLB」では、「名詞＋顔/面/フェース」、「名詞＋の＋顔/面/フェース」、「名詞的＋な＋顔/面/フェース」というグループ別の頻度順、コロケーションにおける名詞、意味用法、共通する語を究明した。調査した結果は表 4.5 に示すように、各グループの使用頻度が全体と一致するものと異なるものがあった。三語の使用頻度は「BCCWJ」と「NLB」（全体）共に「顔」＞「面」＞「フェース」の順位であったが、各グループのコロケーションの順序がそれと一致するとは限らない。

コロケーションで使用される名詞の種類は、「名詞＋顔/面/フェース」と「名詞＋の＋顔/面/フェース」では、感情、物、自然現象、動物、人称名詞等幅広く、「名詞的＋な＋顔/面/フェース」では、多くが抽象的、社会的な意味を持つ語である。

意味用法は、「名詞＋顔/面/フェース」と「名詞＋の＋顔/面/フェース」の間には重なる部分が多くあり（「顔」は容貌・様子、「面」は方面、表面、仮面、「フェース」は表面、容貌・様子）、「名詞的＋な＋顔/面/フェース」には容貌・様子の意味用法が見られる。

三語すべてに共通して使用される語は「数字、個性的」の二語しかない。また、「顔と面」「顔とフェース」「面とフェース」の二語間に共通する語は、「名詞＋顔/面/フェース」の「顔とフェース」では「白」一語のみで、「名詞＋の＋顔/面/フェース」の「顔と面」では「母、青年、老人」など 74 語で、「顔とフェース」では「理想、独自、ドライバー、駅前、ブラック」など五語ある。「名詞的＋な顔/面/フェース」の「顔と面」では「個性的、都会的」など七語がある。

本論は「BCCWJ」と「NLB」のコーパスを利用して、「顔」「面（めん）」「フェース」三語の使用頻度とコロケーションを比較し分析した調査に過ぎない。今後、他のコーパスをも利用して、三語の意味用法、類義表現、類型化をさらに深く探してみたい。

参考文献

- 泉文明 1992「語種・語の位相」『日本語学を学ぶ人のために』玉村文郎編 思想世界社
- 村田純一 1996「認知言語学の英語教育への応用（日英語比較へむけて）」『メタ言語能力と外国語教育』神戸外大論叢 第47巻
- 林 八龍 2002『日・韓両国語の慣用的表現の対照研究』明治書院
- 田中聡子, ケキゼ・タチアナ 2005 「『顔』と<「лицо」>—<顔>の概念の日露対照研究」『世界の日本語教育』15
- 有菌智美 2006「分解可能な慣用表現における身体部位詞の意味拡張」『日本認知言語学会論文集』第6巻
- ラダポーン サイソンブーン 2006「身体部位「顔」の意味拡張：日本語とタイ語の比較」『日本認知言語学会論文集』
- ラダポーン サイソンブーン 2007「身体部位を表すタイ語の文法化：『nāa（顔）』を中心に」『日本認知言語学会論文集』
- 有菌智美 2008「『顔』意味拡張に対する認知的考察」『言葉と文化』V9 国際言語文化研究科 名古屋大学
- 高見澤孟 2011『新・初めての日本語教育 基本用語事典』株式会社アスク出版
- 尾野治彦 2012 「<顔>を表す視覚的体験名詞をめぐって—対応する英語表現との対比観点から—」北海道武蔵女子短期大学紀要（44）1—59
- 李在鎬・石川慎太郎・砂川有理子 2012 『日本語教育のためのコーパス調査入門』くろしお出版
- 『Goo辞書』 <http://dictionarygoo.ne.jp/leaf/thrsrs/136/mou>
- 国立国語研究所 2004『分類語彙表増補改訂版』大日本図書
- 北原保雄 2008『明鏡国語辞典』携帯版 大修館
- KOTONOHA「現代日本語書き言葉均衡コーパス（Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese）」
- NINJAL-LWP for BCCWJ